

1 単元について

対 象 学 年	小学校 第2学年
学 習 指 導 要 領	第1学年及び第2学年の内容 (3)(5)(6)(8)
単 元 名	「できたよ できたね 宝物発表会」 (全16時間)
単 元 目 標	<p><生活への関心・意欲・態度> 自分のよさや得意なことに自信をもち、意欲的に宝物づくりをしようとしている。</p> <p><活動や体験についての思考・表現> 教え支えてくださった身近な人々に対し、自分の成長や感謝の気持ちを伝える宝物づくりを行うことができる。</p> <p><身近な環境や自分についての気付き> 宝物づくりを通して、自分の成長に気付いたり、自分の生活は家族や地域の人々や先生などいろいろな人々に支えられていることに気付いたりすることができる。</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 単元指導計画作成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入で、1、2年生の生活科の学習を通して成長した自分を自覚できるように写真や道具を提示したり、支えてくれた人の存在に触れたりして、「自分の成長を身近な人々に伝えたい」という単元を貫く子どもの願いを大切にす。その願いを実現する過程を重視して、単元の構成を工夫する。 ・「宝物発表会で自分の成長を身近な人々に伝えたい」という願いの実現に向けて作品を作ったり劇化したりする中で、さらに自分の成長への気付きを深めるとともに、そんな自分になれたのは身近な人々のおかげであるという思いを単元を通して育てる。その思いを次の単元「あしたへジャンプ」につなげていく。 <p>単位時間の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的、自発的な学習を進め、自ら学ぶ意欲を高めるために、子ども一人一人の実態をとらえ、常に子どもの思いや願いを大切にする。毎時間の終末に次時の課題やめあてがもてるようにし、子どもから活動が生まれるように単位時間の学習過程を工夫する。 ・「為すことによって学ぶこと」を大切にし、「活動しながら考える、気付く」「考えたこと、気付いたことをやってみる」等、活動を単位時間の中に位置付ける。 ・単位時間において、教師のねらいや指導・援助、評価規準が、子どもの学習課題や活動、振り返る内容とそれぞれが整合するようにする。 <p>教師の指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位時間の評価規準を子どもの姿で明確にもち、個の活動内容や実態を把握し、評価規準に照らし合わせて一人一人の子どもの力が高まるように机列表や名簿に記入をする等補助簿を工夫することにより、個別の指導・援助の計画を立てる。 ・評価規準に達している子どもが自分のよい点や気付きを自覚できるように、教師が価値付ける内容や観点を明らかにしたうえで言葉がけをすることにより、子どもに自己評価の力を付ける。
参 考 資 料	<p>1 「アドバイスカード」(資料1)</p> <p>2 「見つけたよ カード」(資料2、3)</p> <p>3 「できたよ・できたね たからもの けいかくしょ」(資料4)</p>

2 単元の評価規準 2年生「できたよ できたね 「たからもの」発表会」

— 学習指導要領の内容（3） —

自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

— 学習指導要領の内容（5） —

身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることや気付く、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。

— 学習指導要領の内容（6） —

身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして遊びを工夫し、みんなで遊ぶを楽しむことができるようにする。

— 学習指導要領の内容（8） —

多くの人の支えにより自分が大きくなったこと、自分ができるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

	ア生活への関心・意欲・態度	イ活動や体験についての思考・表現	ウ身近な環境や自分についての気付き
内容のごまとのま評り価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人々や様々な場所に親しみをもってかかわり、自分の生活を広げようとしている。（3） ・ 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動をしたりしようとしている。（5） ・ いろいろな遊びに関心を持ち、楽しく遊ぼうとしている。（6） ・ 自分の成長に関心を持ち、これまでの成長を振り返ったり、これからの成長への願いをもって意欲的に生活したりしようとしている。（8） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人々や様々な場所と適切にかかわることや、安全に生活することについて考え、それを表現することができる。（3） ・ 四季の変化や季節に応じて、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりすることができる。（5） ・ 身の回りの自然や身近にある物を使うなどして遊びを工夫し、みんなで楽しむとともに、それを表現できる。（6） ・ 工夫して自分の成長を振り返るとともに、分かったことや成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちなどを表現することができる。（8） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの生活は、地域の人々や様々な場所とかかわりをもっていることが分かっている。（3） ・ 四季の変化や季節によって生活の様子が変わることや気付いている。（5） ・ 身の回りの自然や身近にある物を使うなどして遊ぶことや、みんなで遊ぶと楽しいことに気付いている。（6） ・ 大きくなったこと、自分ができるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた多くの人々がいることに気付いている。（8）
単元の評価規	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教え支えてくださった身近な人々に対し、感謝の気持ちを伝えようとしている。 ・ 今までの体験を生かし、助け合いながら「たから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで支えてくださった身近な人々に対し、感謝の気持ちを表現し、伝えることができる。 ・ 「たからもの」発表会を通して、自分の成長や感 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの経験から、自分たちの生活は、家族や地域の人々や先生などいろいろな人に支えられていることに気付いている。 ・ 2年間のまとめとなる自

準	<p>もの」発表会を作り上げようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のよさや得意なことに自信をもち、意欲的に「たからもの」発表会をしようとしている。 	<p>謝の気持ちを表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成長の喜びや感謝の気持ちを表現することで、さらに自分の成長を感じ取ることができる。 	<p>慢の「たからもの」を作り上げたり、それをお世話になった人に伝えたりできるようになった自分の成長に気付いている。</p>
学習活動における具体的な評価規準	<p>自分が自信をもってできるようになったことを振り返ろうとしている。</p> <p>自分のできるようになったことについて工夫して表現しようとしている。</p> <p>収穫したさつまいもを使って、招待する人のことも考えて調理をしようとしている。</p> <p>自分たちの力で会を運営し、招待した人の気持ちを考えて楽しい「たからもの」発表会にしようとしている。</p>	<p>自分ができるようになったことが伝わるように、誰を招待して、どんな「たからもの」を伝えたいのか考えることができる。</p> <p>今までの生活科の学習を振り返り、「たからもの」発表会で伝えたいことを決め、全員で準備すること、一人一人で伝えたいことを考えて、出し物の計画をたてることができる。</p> <p>今までの生活科の学習を生かして、自分の「たからもの」が伝わるように考えて表現を工夫することができる。</p> <p>自分の「たからもの」のよいことや直すとよいことを見つけ、自分の成長が来てくれた人に伝わるように「たからもの」を作り直すことができる。</p> <p>仲間からのアドバイスを生かして、自分の自慢がもっと伝わる「たからもの」に作り直して表現することができる。</p> <p>自分のがんばりや、お世話になった人への感謝の気持ちを込めて、招待状を作ることができる。</p>	<p>自分が大きくなったこと、できるようになったことを実感しそれは、多くの人々に支えられて成り立っていたことに気付いている。</p> <p>自分ができるようになったことを、喜んでくれる多くの人がいることに気付いている。</p> <p>自分の「たからもの」作りをやりきったことや、招待をした人にあいさつをしたり、自分の「たからもの」を伝えたりできるようになった自分の成長に気付いている。</p>

3 指導と評価の計画（全16時間）

時	ねらい 具体的な10の視点	学 習 活 動	評価規準と評価方法	指導・援助
1	<p>2年間に自分ができるようになったことについて振り返って話すことを通して、多くの人々に支えられて学習ができたことに気付くことができる。</p> <p>(ケ)</p>	<p>1年生4月の時の平均身長・重さが分かる具体資料(人形)を提示し、自分の成長を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>この2年間でどんなことができるようになったか、「たからもの」をお話ししよう</p> </div> <p>小学校に入学してから今までの「たからもの」を発表する。 こんなにいろんな「たからもの」ができたわけを話し合う。 自分の学習を振り返り、自分の「たからもの」を、お世話になった人たちに見せることについて考える。</p>	<p>自分が自信をもってできるようになったことを振り返ろうとしている。</p> <p style="text-align: right;">アー (行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで挙手をしている。 ・仲間の発表を聞いて頷いたり、同じとつぶやいたりしている。 ・提示された資料を一生懸命見たり、道具を使ってみたりしている。 <p>今までの学習は、多くの人々に支えられて成り立っていたことに気付いている。</p> <p style="text-align: right;">ウー (つぶやき・発表内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おうちの人や地域の人など具体的な人にどうお世話になったのかを話している。 ・仲間の発言を聞いて自分も同じだとつぶやいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の時から、今までの学習が分かる写真や道具の提示をするとともに、どんなことができるようになったのかを問いかけ、実際にやってみるように働きかける。 ・「たからもの」ができたのは自分の努力だけではなく、多くの人々の支援があったことまで気付かせる声かけをする。 <p>例:「こんな「たからもの」ができたのはどうしてかなあ」</p>
2	<p>今までの生活科の学習を生かし、自分ができるようになったことが伝わるように、誰を招待して、どんな「たからもの」を伝えたいのか考えることができる。</p> <p>(ケ)</p>	<p>誰を招待して、何を見せたいかを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>誰を招待して、どんな「たからもの」を伝えたいのか考えよう</p> </div> <p>招待したい人を考える。 今まで学習してきたことで、どんなことが「たからもの」なのか話し合う。 自分の学習を振り返り、次時のめあてをもつ。</p>	<p>自分ができるようになったことが伝わるように、誰を招待して、どんな「たからもの」を伝えたいのか考えることができる。</p> <p style="text-align: right;">イー (発表内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜその「たからもの」を見せたいかと言うと、一番自信がある「たからもの」だから」等、わけをはっきりさせて話している。 ・「どうしてその人を招待したいかという、こんなにできるようになった自分を見せたいから」等、わけをはっきりさせて話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習での足場のないことをやろうと願う子どもには、「お家の人、あなたが自信をもってできるようになったことを見ると喜ばれると思うよ」と問い返し、できるようになったことを発表することで自分の成長をお世話になった人に見てもらうことに価値があることに気付かせる声かけをする。

<p>3 ・ 4</p> <p>今までの生活科の学習を振り返り、「たからもの」を伝えるための準備を考え、計画を立てることができる。 (カ)(キ)(ク)(ケ)</p>	<p>前時話し合っ考えた「たからもの」の中から、自分でやってみたいことを決める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「たからもの」伝える発表会の計画を立てよう</p> </div> <p>みんなで準備した方がいいことを話し合う。 自分が伝えたいことを発表しあい、出た意見を整理し、活動ごとのコーナーに掲示でまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>どんぐりごまで遊ぼう 数珠玉で遊ぼう 生き物と仲良し 町のことならおまかせ <昔の遊び> ヨーヨーで遊ぼう だるま落としに挑戦 あやとりで遊ぼう 竹とんぼを作って飛ばそう</p> </div> <p>自分がやりたい活動のコーナーに集まり一人一人て計画を立てる。 自分の学習を振り返り、次時のめあてをもつ。</p>	<p>今までの生活科の学習を振り返り、「たからもの」発表会で伝えたいことを決め、全員で準備すること、一人ひとりで伝えたいことを考えて、「たからもの」の計画をたてることできる。</p> <p style="text-align: center;">イー (発表内容・計画書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が何をしたいのかを具体的に話している。 ・どんな道具や材料が必要か、どんな手順で「たからもの」作りをしていくのかがわかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことがなかなか決まらない子どもには、今までで楽しかった勉強は何かを問い返したり、今までの学習でこんな素晴らしい姿があったと語ったりする。 ・ドングリやオナモミはある時に取っておき、冷凍などして保存しておく。
<p>5 ・ 6 ・ 7</p> <p>自分のできるようになったことに自信をもち、自分の成長や感謝の気持ちが伝わるように表現を工夫することができる。</p>	<p>コーナーごとに集まり、今日自分がやることを確かめ合う。また、「たからもの」の発表をすることで、来てくれた人をどんな気持ちさせることが大切かを考える。</p>		

	<p>(オ)(カ)(キ) (ク)(ケ)</p> <p>自分の「たからもの」を来てくれた人がびっくりするくらいに工夫して作ろう</p> <p>「来てくれた人がびっくりする」ような工夫の中身を話し合う。 前時に立てた計画に従って、製作や練習を進める。 同じコーナーで活動している子同士で、見せ合ったり、試してみたり、アドバイスし合ったりする。 自分の学習を振り返り、次時のめあてをもつ。</p>	<p>自分のできるようになったことに自信をもち、進んで表現を工夫しようとしている。</p> <p>アー (行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な材料や道具を進んで準備している。 夢中になって「たからもの」作りに取り組んでいる。 <p>今までの生活科の学習を生かして、自分の「たからもの」が伝わるように考えて表現を工夫することができる。</p> <p>イー (行動観察・計画書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 何度も試したりいっしょに作っている子に見せたりやってもらったりして、よりよいものにしようとしている。 たくさん作ろうとしている。 たくさんの技に挑戦しようとしている。 きれいに丁寧に作ろうとしている。 一度できたものを作り直そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自信をもってできるようになっ子や満足のいく作品や資料等ができた子を見届け価値付けるとともに、その練習方法や工夫した点を話させ、がんばりや進歩したことを自覚できるようにする 活動が停滞している子には、同じ活動をしている子の様子を観察させ、どうすればよいか気付きを生む。
<p>8 本 時</p>	<p>「たからもの」を紹介しあうことを通して、自分の「たからもの」のよいことや直すとよいことを見つけ、自分の成長が来てくれた人に伝わるように「たからもの」を作り直すことができる。</p> <p>(イ)(オ)(カ)(キ) (ク)(ケ)</p> <p>自分の「たからもの」で自信のもてることや発表で大切にしたいことを明らかにする。</p> <p>自分の「たからもの」をもっとびっくりしてもらえるものにしよう</p> <p>体験の仕方を話し合う。 生活班で「たからもの」を交流し合う。 仲間からのアドバイスや自分で見つけたことから、さらに自分の成長が来てくれた人に伝わるように「たからもの」を作</p>	<p>自分の「たからもの」のよいことや直すとよいことを見つけ、自分の成長が来てくれた人に伝わるように「たからもの」を作り直すことができる。</p> <p>イー (自分の「たからもの」を体験してもらっているときの様子やつぶやき、作り直す活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 誰からどんなアドバイスを受けたか確かめたい時に生かせるよう、アドバイスカードを用意する。 仲間の活動の様子から自分で気付けたことを、価値付ける。

		<p>り直す。 今日の学習を振り返り、次時のめあてをもつ。</p>	<p>の様子) ・ 仲間の体験する様子を見ながら、自分の「たからもの」について積極的に説明したり、感想を聞いたり、褒めてもらって喜んだりしている。 ・ 仲間の体験する様子から、「もう少し・・・しようかな」とつぶやいている。 ・ 仲間からのアドバイスを生かして早速自分の「たからもの」作りに取り掛かっている。</p>	<p>・ 何を直したらよいか分からない子どもには、体験した仲間にもう一度気付いたことを発表してもらったり、「どんなことを褒められたのかな」と問い返したりする。</p>
9	<p>仲間からのアドバイスを生かして、自分の自慢がもっと伝わる「たからもの」に作り直すことができる。 (カ)(キ)(ク)(ケ)</p>	<p>今日の活動のめあてを自分のコーナーで確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>仲間からのアドバイスを生かして、自分の「たからもの」がもっと伝わるように工夫しよう</p> </div> <p>アドバイスを生かして準備を進める。 自分の学習を振り返り、次時のめあてをもつ。</p>	<p>仲間からのアドバイスを生かして、自分の自慢がもっと伝わる「たからもの」に作り直して表現することができる。 イー (行動観察・表現したもの) ・ 前回の続きの活動に早速取り掛かっている。 ・ よりよいものにしようとアドバイスを生かしてさらに作り直したり、技に挑戦している。</p>	<p>・ 活動が停滞している子には、前回どんなアドバイスカードをもらったか問い返し、来てくださった人に「すごい」と言ってもらえるためにはまだ何ができるかを、一緒に考える。</p>
10 ・ 11	<p>自分のがんばりを伝えたり、お世話になった人への感謝の気持ちを伝えたりすることを考えて、招待状を作ることができる。 (イ)(カ)(キ)(ク)</p>	<p>招待状を作る目的や自分のめあてを明らかにする。 全体でやる準備や手順を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>見に来たくなるような招待状を作ろう</p> </div> <p>どんな招待状をどのように書いたらよいか話し合う。</p>	<p>自分のがんばりを伝えたり、お世話になった人への感謝の気持ちを伝えたりすること</p>	<p>・ 発表内容を添えたり、お礼の言葉を書いたりしている子ども</p>

	(ケ)	<p>招待状を作る。 自分の活動を振り返り、次時のめあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たからもの」発表会当日の「おみやげ」として、収穫したさつまいもで作るお菓子を作ることを願いとしてもつ。 	<p>を考えて、招待状を作ることことができる。</p> <p>イー (行動観察・表現したもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もらった相手が来たくるように内容を考えて、招待状を書いている。 ・自分のがんばりや感謝の気持ちが表れている招待状を書いている。 	<p>もを、「もらった人が喜んで来てくれるよ」と価値付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に字を書いたり色を塗っている子どもを、「これならさんの感謝の気持ちが伝わるね」と価値付ける。
12 ・ 13	<p>収穫したさつまいもを、招待した人に喜んでもらえるよう、安全においしく調理をしようと思えることができる。</p> <p>(ア)(カ)(コ)</p>	<p>教師が作ったさつまいもの茶巾絞りを試食し、自分でも作って招待する人をもてなそうとする気持ちをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>安全に気を付けて、招待した人に喜んでもらえるさつまいもの茶巾絞りを作ろう</p> </div> <p>作り方を聞き、安全に気を付けてさつまいもの茶巾絞りを作る。 自分の活動を振り返る。</p>	<p>収穫したさつまいもを、招待する人に喜んでもらえるよう、安全においしく調理をしようとしている。</p> <p>アー (行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べる人のことを考えて、丁寧に皮をむいたり、味見をしたり、きれいに形を作ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・包丁・ゆでる・ざるにあげるなど、危険が伴うので、お母さん先生にもお手伝いいただく。 ・安全に留意している姿を価値付け広げる。
14 ・ 15	<p>自分たちの力で会を運営し、招待した人に喜んでもらえることを大切にして「たからもの」発表会をすることができる。</p> <p>(イ)(ウ)(オ)(ケ)</p>	<p>自分の活動のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>招待した人に自分の「たからもの」を伝えよう</p> </div> <p>「たからもの」発表会をはじめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方、訪問した施設の方をに対して、子どもたちによる司会・進行で、歓迎の言葉、発表、インタビュー、お礼の言葉・プレゼント渡しなどのプログラムに基づき発表会を行 	<p>自分たちの力で会を運営し、招待した人の気持ちを大切にして喜んでもらえる「たからもの」発表会にしようとしている。</p> <p>アー (行動観察・表現したもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の「たからもの」を生き生きと見せたり話したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・招待状を届ける際に、招待する保護者や地域の方に授業のねらいにかかわって、子どもたちの成長ぶりを認め、自信をはぐくめるような声かけをしていただくよう依頼する。 ・時間やルールを守らない子どもには「今日のめあては何だったかな」と問い返し、気付きを促す。 ・自分の活動の振りりの時招待した人の自分へのかかわりに

		<p>う。 自分の活動を振り返る。 招待した人をお見送りする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験しているうちに壊れてしまった時には、すぐに修理をしている。 自分ができるようになったことを、喜んでくれる多くの人がいることに気付いている。 ウー（行動観察・つぶやき） ・以前の学習でかかわりのあった人に声をかけたり、その時の様子や学習内容について話している。 ・褒めてもらったことでさらに自信をもって「たからもの」を発表している。 	<p>目を向けたり、褒めてもらえたことを喜んだりする姿を価値付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方々の発言の場では、子どもたちが一方的に話を聞くことに終始しないよう問いかけたりして、子どもたちからも発言できるような話し方・内容をお願いします。
16	<p>「たからもの」発表会で楽しかったことを絵や文で表すことを通して、自分の成長に気付くことができる。 (ケ)</p>	<p>「たからもの」発表会の感想を話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「たからもの」発表会の「たからもの」を交流しよう</p> </div> <p>自分の「みつけたよカード」に書く。 「みつけたよカード」をもとに交流する。 自分の活動を振り返る。</p>	<p>自分の「たからもの」作りをやりきったことや、招待をした人にあいさつをしたり、自分の「たからもの」を伝えたりできるようになった自分の成長に気付いている。 ウー（行動観察・「みつけたよカード」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分ができるようになったことや自信がもてたことについて具体的にカードに書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「みつけたよカードを」きれいに書くだけではなく、そこに自分の成長への気付きがある子どものカードを価値付ける。

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

「たからもの」を紹介しあうことを通して、自分の「たからもの」のよいことや直すとよいことを見つけ、自分の成長が来てくれた人に伝わるように「たからもの」を作り直すことができる。

(2) 本時の位置

8 / 16時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価規準と評価方法 ・評価の視点 () 評価方法	指導・援助
つかむ 活動する	<p>1. 数名の子どもができあがった「たからもの」の自慢を紹介し合う。 <「どんぐりごまコーナー」> C1:「どんぐりごまをたくさん作ったよ。」 C2:「みんなに試しにやってもらって感想を言ってもらえると自信がつくよ。」 C3:「上手にまわせるコツを話してくれるといいな。」 C1:「コツをお話しして、みんなにも上手に回してもらおうよ。」</p> <p>2. 「どんぐりごまコーナー」のように、「たからもの」の発表をもっとよいものにしたいという願いをもつ。 T:「発表でどんなことをがんばりますか。」 C4:「今まで練習したことを一生懸命やるよ。」 C5:「招待した人が喜んでもらえるようにがんばるよ。」 C6:「1年間でできるようになったことを見て、 T:「そうですね。来ていただける方たちに『こんなこともできるようになったの!』と驚いてもらえるといいですね。」</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の「たからもの」をもっとびっくりしてもらえるものにしよう</p> </div> <p>3. みんなで体験の仕方を話し合う。 ・「好きなコーナーに行くと、誰も体験してくれないコーナーがあると困るよ。班で交流しよう。」 ・「アドバイスカードを使って、班でアドバイスをするといいね。」 ・「すごいと褒めてもらったことやアドバイスをしてもらったことを忘れないように、メモしておくよ。」</p>	<p>思考・表現 イ</p> <p>自分の「たからもの」のよいことや直すとよいことを見つけ、自分の成長が来てくれた人に伝わるように「たからもの」を作り直すことができる。 (コーナーを体験してもらっているときの様子やつぶやき、作り直す活動の様子)</p>	<p>・本時の活動のイメージや見通しがもてるよう、自分の「たからもの」の自慢を発表し合ったり、体験し合ったりした後で、感想やアドバイスを述べ合う活動を位置付ける。</p> <p>・「もう、お客さんを招待してもいい?」と問い返し、「ぼくも仲間に試してもらって、自信をもったり、もっといいものにしたい」という願いを引き出して課題に結び付ける。</p> <p>・どのように体験し合うとみんながめあてを達成できるか問い、誰も体験してくれないと困ることに気付かせ、班内で交代に体験することを決める。</p>

<p>振り返る</p>	<p>4 . 生活班で「たからもの」を交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「トンボやヤゴの絵が本物そっくりでびっくりしたよ。これなら、お家の人もびっくりするよ。」 ・「さすが元気ハウス博士」だね。クイズで元気ハウスのことがよく分かったよ。でも、簡単なクイズが多かったから、もうちょっと難しいものがあったらいいかな。」 <p>4 . 仲間からのアドバイスや自分で見つけたことから、さらに自分の成長が来てくれた人に伝わるように「たからもの」を作り直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「クイズがちょっとわかりにくそうだったから、答えを選ぶように作り直すよ。」 ・「上手にヨーヨーができるって褒めてもらえたので、本番まで気を抜かず、へたにならないよう練習を続けるよ。」 <p>5 . 今日の学習を振り返る。</p> <p>< 「生物となかよしコーナー」 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仲間からアドバイスをもらって、クイズの答えがすこし簡単なことが分かったよ。それに、口で話すだけでなく、絵や生き物を見たりさわったりしてもらって、生き物となかよしになってもらえると思います。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の体験する様子を見ながら「よく回る？」等と自分の「たからもの」について積極的に尋ねたり、褒めてもらったことについてもっとよいものにしようとしている。 ・仲間の体験する様子から、「もう少し・・・しようかな」とつぶやき、アドバイスやほかの子の発表を参考にして見直し、発表を変えている。 <p>(発表のようす)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の「たからもの」を見せながら、どこをどう褒めてもらったかや、どう直したかを具体的に話す。 ・仲間との交流の様子や、自分で気付いたりしたことなどからどうしてそう直したのか、わけをつけて話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰からどんなアドバイスを受けたか、終末に振り返ることができるよう、アドバイスカードを用意し互いの発表についてコメントを書く。 ・仲間の活動の様子から自分で気付けたことを、価値付ける。 ・何を直したらよいか分からない子どもには、体験した仲間にもう一度気付いたことを発表してもらったり、「どんなことを褒められたのかな」と問い返したりする。 ・教師が見つけたよい姿を紹介し、自己評価（ペア交流）の具体的な姿を提示する。
-------------	---	---	--

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時のねらい(8時/16時)

「たからもの」を紹介しあうことを通して、自分の「たからもの」のよいことや直すところを見つけ、自分の成長が来てくれた人に伝えるように「たからもの」を作り直すことができる。

(2) 評価規準

活動や体験についての思考・表現 イ

・自分の「たからもの」のよいことや直すところを見つけ、自分の成長が来てくれた人に伝えるように「たからもの」を作り直すことができる。

(3) 評価方法

・「たからもの」を体験してもらっているときの様子・つぶやき・作り直す活動の様子・発表の様子

(4) 評価の視点・具体的な子どもの姿

ア)「たからもの」を交流し合う過程

自分の成長を伝えるためにもっとするとよいことを見つけている姿。

・もらったアドバイスを生かして練習や作品づくりを行っている姿。

・もらったアドバイスや感想に、自分なりの工夫を加えて練習や作品づくりを行っている姿。

イ)「たからもの」を作り直す過程

自信をもって「たからもの」作りを続けている。

・いつでもできるように、今までできた技を1つずつ確かめながら練習をする姿。

・みんなに喜んでもらえるよう体験コーナーの準備を続ける姿。

・時間がある限り作品作りを黙々と続ける姿。

「たからもの」を作り直す過程

・全ての作品がよいものになるよう1つ1つ作品を確かめて作り直している姿。

・新しい技に挑戦している姿。

・発表の練習を仲間に聞いてもらう姿。

・より分かりやすくなるよう説明を書き直す姿。

(5) 評価規準の実現のための事前・事後の具体的な指導・援助

事前・ ・ 1年生4月の平均身長(123cm)と体重(20kg)がわかる資料(人形)用意する。

・自分の成長に目を向ける。

S「小さい。」「誰それ?」「背比べしたい。」

T「比べっこしたい人?」体格のよい子どもを指名。

S「すごくちがう。」「さんのほうがずっと大きいよ。」

T「これはね。みんなが1年生のときの大きさなんだよ。ほかにも1年生のときよりできるようになったことはあるかな?」

< 配慮すべきこととして >

小学校低学年においては、身体的な成長に著しい個人差が見られる場合があるので、学級の実態、特に、一人一人の状況を把握し、上記の指導にあたっては、児童本人及び保護者への十分な配慮が求められる。

朝の会、帰りの会でのアドバイスカードを活用する。

・アドバイスのよさを実感する。

・朝の会では目当てとそのための作戦の交流、帰りの会では「たからもの」と次にがんばることの交流を行い、交流したことで褒めてもらえたり、こうするといいと教えてもらえて得をしたりした体験を積み重ねておく。

計画書に朱筆を入れる。

- ・個の願いを把握し、個にあった支援をする。

授業・ ・ 導入時に発表したYさんの「たからもの」に対して他の子どもの意見を聞き、課題化する。

- ・本時の活動をどの子どももイメージする。

T:「Yさんはこんな素敵な「たからもの」ができたんだね。みんなはYさんの「たからもの」のことをどう思った? いいよ・こうするといいよ・質問のどれかな?」

C:「いいよと思ったよ。わけはその本を見ればいろんなあやとりの技がわかるからだよ。」

T:「Yさん。褒めてもらえるとうれしいね。こうするといいよはあるかな?」

C:「本もいいけれどYさんが実際にあやとりの技をやって見せるほうがもっとびっくりするよ。」

T:「Yさん、もっといい「たからもの」にできそうだね。みんなもこんなふうにアドバイスしあうともっとびっくりしてもらえる「たからもの」にできそうだね。」(課題化)

カードの必要性を引き出す。

- ・アドバイスを意識化する。

T:「アドバイスカードいる?」

C:「いるいる、だって忘れたときに、誰に確かめたらいいかわかるから。」

自分の成長を伝えることに自信をもたせる。

- ・共感する

T:「すごいね。それならおうちの人にびっくりしてもらえそうだね。」

- ・問い返し、価値付ける

T:「(アドバイスカードを見て) みんなにどんなところがいいって言って貰えたのかな。」「それなら自信をもって発表会を迎えられそうだね。」

自分の成長を伝えるためにもっとするとよいことを見つけられるようにする。

- ・方向付ける

T:「具体的にどうしたらいいかを教えて貰えたから早速直せるね。」

- ・問い返し、気付きを促す

T:「(アドバイスカードを見て) さんにどうするといいと言われたのかな。」

C:「・・・」 T:「どうするといい?」 C:「さんに聞いてくる。」

- ・聞いてきたことを確かめ、具体的に何をするのかをはっきりさせる。

自信をもって「たからもの」作りを続けさせる。

- ・価値付ける

T:「これだけ練習すれば本番もばっちりだね。」「これだけ用意がされていればみんなが作れ(遊べ)るね。」

「たからもの」を作り直すことができるようにする。

- ・価値付ける

T:「もっとびっくりしてもらえるよう新しい技(作品)に挑戦しているんだね。」

- ・問い返し、気付きを促す

T:「(アドバイスカードを見て) さんにどうするといいと言われたのかな。」

- ・見守る、または共に活動して方向付ける

T:「いいアドバイスをもらったね。やってみようか。」「いっしょにやろうか。」

事後・ ・ 発表会まで「たからもの」をいつも意識できるようにする。

- ・紹介する

T:「さんは発表会まで技をもっといいものにしようと休み時間もやっているんだね。」

「たからもの」発表会への意欲化を高める。

- ・参加の依頼
お世話になった地域の方を訪問して子どもの招待状をお届けすると共に参加をお願いします。

単元の終末で「見つけたよカード」を記入する。

- ・成長に気付かせる
「自分にびっくりしたよ」というタイトルで「見つけたよカード」を書く。

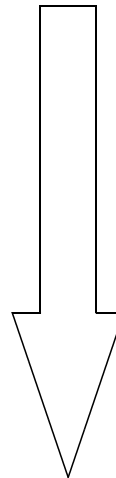
(6)「おおむね満足できる」状況(B)を実現するための指導・援助

事例1：前時までの学習から「おおむね満足できる」状況(B)に達することが困難だろうと判断できる児童
～ A男～

前時までの学習から予想できる A 男の反応

- ・自分の成長が伝えられる一番の「たからもの」は何かを決める時、決められなかった。教師との相談で、留守家庭でお世話になっている元気ハウスのことをクイズで伝えたと決めるが、自分が「冒険・発見・町探検」の単元で作ったクイズをそのまま使い、後は活動が停滞していた。
- ・仲間のクイズを取り入れながら、何とか3問作る。そのうち1問をスペシャルクイズとする。
- ・×クイズが3問中2問で、本時の交流で×ではなく、答えるクイズに変更するなど、クイズの内容の高まりを期待したいが、アドバイスをされたことを記憶にとどめ、活動に生かすところに弱さが見られる。

- ・アドバイスカード[資料1]を見ながら、問う。
T：「Hさんにどんなアドバイスをもらったの。」
A男：「・・・」
T：「思い出せなかったらどうしたらいいと思う？」
A男：「Hさんに聞いてくる。」
・Hさんのところへ行くことを見届け、しばらく後に確認する。
T：「どうだった？」
A男：「答えのわけを書いた方がいいと言った。」
T：「そうすれば、もっとびっくりしてもらえそうだね。」



- ・Hさんに聞けば何をしたらよいかわかるはずであると気付きを促す。(やりとり)
- ・何をすることがはっきりしたことを価値付け、活動を方向付ける。

本時の終末での A 男

- ・「答えのわけを書いたほうが、より元気ハウス博士ってことが伝わるからいい」とわかり、×クイズの答えがどうして(×)なのかわけを書く活動に入ることができた。
「おおむね満足できる」状況(B)と判断

本単元の終末での A 男

- ・終末「「たからもの」発表会をやり終えて自分にびっくりしたことを書こう」の時間で A 男は、[資料2]のように、町のことが分かるようになった自分の成長に気付くと共に、その成長を母親が褒めてくれたことにとても喜びを感じていた。

[資料1]

アドバイスカード 2-1 名前()		A男		
アドバイス	いいよ	しつもん	いいよ	こうすると
はんの子の名前				
H子				◎
M子				
H男	◎			

[資料2]

見つけたよ	2月 9日
自分がびっくりしたよ	くる

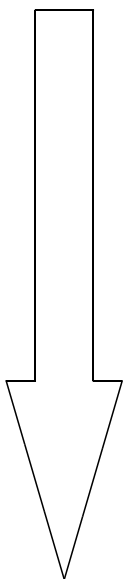
1年生の時は町のことが分かって
なかったけれど2年生になった
ら町のことが分かるように
なったからたからものはって
上会で自分のびっくりした
と思ひました。たからものおかあさん
にさでいってほめられたので
うれしかったよ。

事例2：強い願いはあるが自己表現がうまくでないため「おおむね満足できる」状況(B)に達していても見届けることがむずかしいと考えられる児童 ~ B男 ~

前時までの学習から予想できるB男の反応

- ・自分の成長が伝えられる1番の「たからもの」は何かを決める時、すぐに1年生の秋見つけの単元で遊んだどんぐりゴマのことを思い出し、前よりももっと回るどんぐりゴマをたくさん作りたいと願ひをもつ。
- ・どんぐりを慎重に選ひながら、こまを黙々と作っている。
- ・しかし、自己表現がうまくできず、自信をもって話すことができないため、「たからもの」の素晴らしさが伝わりにくい。

T：「B男さん、こまを褒めてくれる仲間がたくさんいて、すごいね。」
T：「B男さんのこまってどうしてこんなに回るか秘密を知りたくない？」(周りの子に)
周りの子：「知りたーい。」
T：「B男さん、この秘密をみんなに分かりやすく伝えるにはどうしたらいいかなあ。」
B男：「・・・」
T：「みんなならどうする？」
周りの子：「書いたらいいよ。」
「順番にこまを回しながら話したら。」
B男：「忘れないように、紙に書く。」
T：「それなら伝わりそうだね。」



- ・B男のたからものを価値付け、自信をもたせる。
- ・これからの活動への気付きを引き出すとともに、方向付ける。

本時の終末でのB男

- ・話すことを忘れるといけないからと、紙にどنگりの選び方のこつや、芯のための穴の開け方や、軸の通し方や回し方などを書くことができた。

「おおむね満足できる」状況(B)と判断

本単元の終末でのB男

- ・終末「「たからもの」発表会をやり終えて自分にびっくりしたことを書こう」の時間でB男は、[資料3]のように、恥ずかしさを乗り越えて自分の「たからもの」を伝えることができたようになったという成長に気付くことができた。

[資料3]

